

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society, No. 46

目次

1. [第 60 回大会を終えて](#)
2. [第 34 回平塚賞の選考を終えて](#)
3. [第 34 回平塚賞を受賞して](#)
4. [総会報告（第 60 回大会総会）](#)
5. [各種委員会からの報告とお知らせ](#)
6. [第 61 回大会について](#)
7. [お知らせ](#)
 - ・ 2023 年度会計報告
 - ・ 2024 年度予算案
 - ・ 学会への寄贈図書
 - ・ 新入会員
 - ・ 年会費納入のお願い
 - ・ 特別会員制度について

1. 第 60 回大会を終えて

第 60 回大会準備委員長
服部 美奈

日本比較教育学会第 60 回大会は、名古屋大学大学院教育発達科学研究科と大学院国際開発研究科の共催のもと、2024 年 6 月 28 日（金）～30 日（日）に名古屋大学東山キャンパスで開催されました。東海地区での開催は、1967 年（第 3 回大会）、1979 年（第 15 回大会）、1993 年（第 29 回大会）、2004 年（第 40 回大会）、2014 年（第 50 回大会）に続き 6 度目です。

今大会は、公開シンポジウムと課題研究をハイブリッド形式にした他は、思い切って対面で開催させていただきました。皆様にはご足労をおかけしてしまいましたが、幸い大変多くの皆様が名古屋まで足を運んでくださいました。おかげさまで通常会員 248 名、学生会員 74 名、特別会員 1 名、臨時通常会員 35 名、臨時学生会員 54 名、当日受付（一般 5 名、学生 3 名）、計 420 人名のご参加をいただきました。今年度からは従来の臨時会員のカテゴリーを通常と学生に分け、新たに臨時学生会員のカテゴリーを設けましたので、非会員の学生の皆様にも参加費の便宜をはかることができました。

発表では、ラウンドテーブル 12 件、自由研究発表 153 件の申し込みがありました。自由研究発表では 41 の部会を設け、うち 12 は英語部会（英語による発表は 43 件）でした。さらに今大会では、日本比較教育学会が 2025 年 3 月に創設 60 周年を迎えることから、学会創設 60 周年プレ企画も開催されました。皆様のご協力のおかげで無事、大会を終えることが

できましたこと、大会準備委員会を代表しまして心よりお礼申し上げます。

大会日程は、ほぼコロナ禍以前の形態に戻し、加えてコロナ禍にオンライン形式で始まったブックトークも対面で実施しました。28日（金）は午後から常任理事会、全国理事会、ラウンドテーブルを行い、29日（土）は自由研究発表Ⅰ、Ⅱ、課題研究Ⅰ、Ⅱ、総会、情報交換会のほか、昼食の時間帯に学会創設 60 周年プレ企画を行いました。30 日（日）は自由研究発表Ⅲ、Ⅳのほか、昼食の時間帯にブックトーク（東信堂、明石書店）と若手研究者交流会を行い、午後最後の時間帯に公開シンポジウムを開催しました。大会開催中は昼食の時間帯までぎっしりと企画が詰め込まれたスケジュールとなりましたが、昼食のイベントではお弁当をいただきながら、リラックスした雰囲気のなかで活発な議論が繰り広げられ、本学会の自由で大らかな雰囲気が反映されていたように思います。

大会校企画の課題研究Ⅰでは「世界の暴力を見つめる比較教育学－多角的な理解を切り拓く」、研究委員会企画による課題研究Ⅱでは「つながる時代の比較教育学を問い直す（1）－COVID19 は比較教育学に何を問いかけたのか」というテーマ設定のもと、多くの会員の皆様にご参加いただきました。課題研究Ⅰは、「大規模暴力の例に基づき、それらに対する教育の関わりを意識的に多角的に捉えていくことで、暴力と平和・人権をめぐる教育研究に独自の貢献をなすことを試みる」もので、比較教育学が強みとする多様な地域・アプローチによる登壇者の発表のもと、活発な議論が行われました。課題研究Ⅱでは、「COVID19 を通した研究活動の経験を単に振り返るのではなく、そうした振り返りから学問としての比較教育学を改めて問い直す視点を提示するとともに、その問い直しの先をどのように構想できるのか」というテーマ設定のもと、「つながる」をキーワードに登壇者による異なる視点からの問題提起がなされ、活発な議論が行われました。

公開シンポジウムは、「個と世界のつながりを再考する－コンヴィヴィアリティ（自立共生）を参照軸として－」というテーマ設定のもと、世界の多様な国や地域の教育を研究することを通して教育という視点から個と世界のつながりに関する知見を蓄積してきた比較教育学の見地から、個のあり方や世界のつながり、あるいは人と人の新たな関係性をめぐって育まれてきた思想を取り上げ、それをコンヴィヴィアリティ（自立共生）という概念を一つの参照軸として再考するもので、登壇者の問題提起を受けて活発な議論が行われました。

学会創設 60 周年記念事業では、プレ企画「フィルムカメラの時代の比較教育学」プロローグ」として2つのイベントが行われました。一つは土曜日の昼食の時間帯に実施されたランチタイム・トークイベント「フィルムカメラの時代の比較教育学：フィルム写真の保存と管理－私の試行から－」です。このトークイベントでは、西野節男会員（名古屋大学名誉教授）が、森下稔会員（学会創設 60 周年記念事業担当理事）と草薨佳奈子会員との愉快的掛け合いのもと、フィルムカメラで撮影した写真の保存・管理のお話や、フィルムカメラで撮影した写真を例示しながらお話くださいました。もう一つのイベントは、6月29日9時から6月30日13時までの2日間にわたり、全学教育棟1階の服部ホールに展示スペースを設け、フォトスキャナーの実演・体験とともに、西野節男会員によって1970年代から1980年代に撮影された写真の上映会と展示が行われました。

大学生協南部食堂で行われた情報交換会には234人（ご招待の出版関係者、祝辞をくださった総長、アルバイト学生を含めると260名以上）の参加をいただきました。情報交換会では、アフリカのジャンベという、エネルギーに満ちた打楽器演奏とダンスが披露されました。多くの皆様にはジャンベの演奏に合わせてダンスに参加していただき、大変賑やかで楽しい雰囲気に包まれました。ドリンクコーナーでは、サントリーモルツの生ビールのほか、東海地方の日本酒や知多のウィスキーや復刻地元ビール「カブトビール」も振舞われました。

このように大会運営を円滑に進めることができたのは会員の皆様のおかげです。また前大会校の上智大学の皆様にはわからないことがあるたびにご相談にのっていただき、強力にサ

ポートしていただきました。そして、大学院教育発達科学研究科と大学院国際開発研究科の事務の皆様にも大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

来年の第 61 回大会は、帝京大学で開催していただけることになりました。また皆様とお会いできることを心より楽しみにしております。なお、今大会で学会創設 60 周年記念ロゴを作成しましたので、今大会だけでなく 60 周年記念事業の期間中、特に第 61 回大会におきましてもお使いいただければと思っております。改めまして、この度は本当にありがとうございました。



公開シンポジウム



課題研究Ⅰ



課題研究Ⅱ



60 周年プレ企画（トーク）



情報交換会



60 周年プレ企画（展示）

2. 第 34 回平塚賞の選考を終えて

平塚賞運営委員会 委員長
乾 美紀

第 34 回平塚賞審査では、自薦・他薦による 2 点の応募がありました。2024 年 4 月 27 日（土）に審査委員会を開催し、様々な角度から慎重な議論を行いました。審査委員会での慎重な審議の結果、千田沙也加会員の著書である『カンボジア「クルー・チャタン」の時代一ポル・ポト時後の初等教育』に第 34 回平塚賞を授与致しました。

本書はカンボジアにおけるポル・ポト政権の復興期の初等教育の再建を、緊急の対応で任命された「クルー・チャタン」と呼ばれた人たちのライフヒストリーから明らかにすることを目的としています。これまでの先行研究では「クルー・チャタン」と呼ばれる教員は、資格を持たない、低資格だと一括りにされていましたが、調査の結果、実際はそうではなく教育経験者や高学歴者がいたことを明らかにし、これまでの認識を覆す知見を提供したことが高く評価されました。特に、委員会では、筆者が現地調査を何度も重ね、足を使って 24

名もの元教師からライフヒストリーに基づく生きられた歴史の描写を綿密に描写したこと、そのことにより、クルー・チャットンがカンボジアの復興期においてどのような教育役割を果たしたか明らかにしたこと、の学術的意義が大きいと評されました。また、研究全体を通して、詳細な調査結果の結果の先に普遍性を見い出そうとすること、当然と思われていたことを教育現場で問う時に参照できる点を提示していることから、比較教育学への貢献が高いと評価されました。

会員の皆様のご協力によって本章が選ばれたことは学会における研究の発展に寄与するものと大変喜ばしく思っています。今後も引き続き、図書、論文の刊行と推薦につきまして会員への周知、ご支援などよろしくお願い致します。

3. 第 34 回平塚賞を受賞して

千田 沙也加



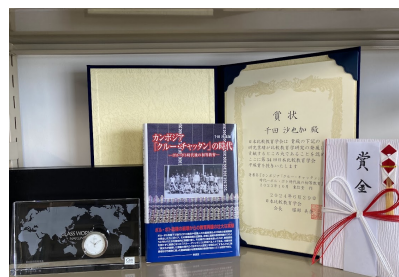
このたびは、拙著『カンボジア「クルー・チャットン」の時代—ポル・ポト時代後の初等教育—』が日本比較教育学会第 34 回平塚賞という大変名誉ある賞を頂きましたこと、誠に光栄に存じます。これまで大変お世話になった先生方、先輩方、仲間たちに心から感謝申し上げます。また、平塚賞運営委員の先生方、委員長乾美紀先生にも心より御礼を申し上げます。

拙著は、カンボジアのポル・ポト時代後の混乱した社会で、緊急の対応で任命された教師たちの「生きられた歴史」を検討し、この時期の教育再建の意味や価値を、ローカルで個別的な観点から明らかにすることを試みたものです。

この時期の多様な背景がある教師たちの想いや生き方が少しでも伝わることを心がけました。個々の教師が取り組んだ教育実践の歴史的な意味や価値は、さまざまな文脈に依存して解釈しようと考えます。そして個々の教師の「生きられた歴史」を私たちが追体験し、自己の文脈と比較し再考することを「小さな比較教育学」とし、個別の中に普遍的な問いをみましました。

たとえば、私が出会った村で最良の小学校教師と呼ばれていた方は、小学校卒業程度の学歴しかありませんでした。彼女は、教師に任命されてから、日々の教育実践を自分で工夫し、新しい教育方法を次々と取り入れて自分のものとすることで、とても柔軟な対応をしていました。彼女の人生は「良い教師とは何か」を私たちに問うものです。

こうした個別の中に普遍的な問いをみつめる比較教育学の挑戦は、まだ始まったばかりです。この度の平塚賞の受賞は、これからの研究への激励であると受け止めています。今後は、より一層カンボジアの地域に根差す教育研究を豊かにするとともに、「小さな比較教育学」の方法を鍛えていく所存です。そして、比較教育学研究に貢献できるよう励みます。今後ともどうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



4. 総会報告（第 60 回大会総会）

2024 年 6 月 29 日（土）に、第 60 回大会総会が開催されました。総会の議事次第は以下の通りです。

日時：2024 年 6 月 29 日（土）17：00～18：00

場所：名古屋大学

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 大会校ご挨拶
4. 議長団選出
5. 2023 年度事業報告（事務局、各種委員会）
6. 平塚賞授賞式と記念撮影
7. 2023 年度決算報告および監査報告
8. 2024 年度事業計画（各種委員会）
9. 学会創設 60 周年記念事業について
10. 2024 年度予算案（事務局）
11. 法人化及び選挙のあり方について
12. 第 61 回大会開催について
13. 閉会の辞

5. 各種委員会からの報告とお知らせ

平塚賞運営委員会

委員長 乾 美紀

第 35 回平塚賞候補作品を例年通り下記の要領で募集します。応募は自薦・他薦を問いません。多くの会員からの応募を期待しています。

対象作品：2024 年 1 月～12 月に公刊された比較教育学に関する著書・論文（分担執筆を含む。ただし連名のものを除く）

応募要領：本学会ホームページ掲載の「平塚賞候補著書・論文推薦書」（MS-Word, PDF）に必要事項を記入し、当該著書・論文 1 部とともに提出すること。

締め切り：2025 年 1 月 31 日（金）（必着）

送付先 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2-401（株）ガリレオ気付
日本比較教育学会・平塚賞運営委員会
委員長 乾 美紀

紀要編集委員会

委員長（前期） 福留 東土

先日、会員の皆様に『比較教育学研究』第 69 号をお届けしました。69 号の特集では「大学教育への学生参画の国際比較」をテーマとし、複数の海外研究者による執筆を含む 7 本の論考を収録しました。大学における教育や運営に対する学生の参画は日本ではまだまだ本格的に議論されるには至っていませんが、欧米諸国を中心に重要な 이슈となっており、地域によっては制度として根付いているところも少なくありません。今後日本での議論が活発化することを望みたいと思います。

自由投稿論文では、はじめてオンライン投稿システムを導入しました。さっそく多くの会員に活用いただきました。69 号ではほとんどの投稿がオンライン投稿であり、現在編集集中の第 70 号ではすべての投稿がオンラインでした。第 71 号からはオンライン投稿に一本化する予定です。留意して下さい。

オンライン化の効果もあったのか、投稿数は大幅に増えましたが、一方で形式審査で不受

理となる論文が多かったのが残念でした。幸い、現在編集中の 70 号では不受理論文は無かったので安堵しています。引き続き、投稿時には投稿要領の十分な確認をお願いします。

査読対象となった 18 本の中から 4 本を収録しました。ちなみに、前号の 68 号では 12 本中 4 本が採録されました。できるだけ多くの論文を採録したい思いはありつつも、しっかりと質が担保された比較教育学研究の成果を掲載することも編集委員会の重要な役割です。今後も執筆者と査読者の対話を重視した査読を進めたいと思います。次の投稿受付は 2025 年 1 月 20 日（第 71 号）です。多くの会員の投稿をお待ちしています。

研究委員会

委員長 佐藤 仁

研究委員会では、第 60 回大会において課題研究「つながる時代の比較教育学を問い直す（1）—COVID19 は比較教育学に何を問いかけたのか—」を企画しました。比較教育学という学問を「つながり」をキーワードに議論することを今期の方針とした中で、初年度は COVID19 による「つながり」の変容に焦点を当てました。大会当日は、秋庭裕子さんと星野晶成さんの司会の下、関口洋平さんによる「コロナ禍における比較教育学にとっての空間と時間」、そして花井渉さんによる「COVID19 による教育政策・教育制度研究への影響—イギリスの資格認証制度研究の経験から—」の二つの報告が行われました。報告を受けて、間篠剛留さんから指定討論者として、いくつかの論点が提示されました。ディスカッションの時間では、フロアーの参加者からもコメントが共有され、例えば元々「つながり」がなかった研究者にとっては、さらに困難な状況であったことや、現地調査の意味を再検討する必要性などが指摘されました。

9 月 2 日には、課題研究の議論をさらに深めるべく、フォローアップセミナーをしました。セミナーでは、徳永智子さんに「コロナ禍を経た新たなつながり—参加型アクションリサーチを試みて—」と題して報告していただきました。コロナ禍を契機とした新たな試みの可能性と課題が提示される中で、参加者とのディスカッションを通して、研究対象者とのつながりの組み換えの重要性が見えてきました。

以上の初年度の成果を踏まえて、2 年目は比較教育学という学問と実践現場等とのつながりを議論していく予定です。引き続き、ご協力いただきますよう、よろしくお願いします。

国際交流委員会

委員長 黒田 一雄

国際交流委員会では、服部美奈会長の発案の下、山田肖子 WCCES 担当理事、杉村美紀常任理事、丸山英樹常任理事と協力して、2024 年 7 月 22–26 日の日程で米国コーネル大学において開催された WCCES 世界大会において、日本比較教育学会・WCCES 研究委員会合同パネルを開催しました。プログラムは以下の通りです。

JCES and WCCES Research Standing Committee Panel on “Prospecting Global Governance of Education for Equitable and Sustainable Futures: Multi-layered Perspectives on Knowledge Creation and Diffusion”

Presenters:

- Miki Sugimura, Ph.D. Professor, Sophia University
“Global Governance of International Collaboration in Higher Education”
- Hideki Maruyama, Ph.D. Professor, Sophia University

“Grass-rooted Commons to Global Governance: from a deep perspective in sustainability education”

- Kazuo Kuroda, Ph.D. Professor, Waseda University

“Historical Reviews of Global and Regional Governance of Education for Peace and Reconciliation”

広報委員会

委員長 丸山 英樹

メーリングリストによる配信メールではフッターに案内文を掲載し、効率化を行ってきました。学会 Web サイトでは、更新が 10 年以上滞っていた中国語ページを廃止する代わりに、英語での情報共有を進めていく予定です。特に英語ページについては、広範な活用を目指して、会員の研究活動にも資する形で展開を目指して参ります。

情報発信と共有という点では、SNS 活用も予定していましたが、近年 SNS における炎上や不適切な書き込みによるリスク管理などの面から積極的な運用は控えております。安定した SNS 運用ができるよう心がけていきたいと存じますので、会員の皆様からのご助言などを賜ることができたら幸いです。

若手ネットワーク委員会(Y-Net)

委員長 鴨川 明子

学生会員代表 八木 歩

今期の Y-Net も、引き続き、2つの全体方針を掲げております。第1に、ネットワークを活かして、「若手にしかできないこと」に挑戦する、第2に、持続可能性に鑑み、「イベントのスリム化」を図るという2つの方針です。具体的には、次のような活動を行って参りました。



■第 60 回年次大会時に「若手研究者交流会」を行いました。64 名もの会員の方々にお集まりいただきました（写真）。

■学生会員委員を中心として、「若手研究者座談会」、「若手による若手のための読書会」を定期的に開催しております。

読書会は、9 月 26 日（木）19:30-21:00 の開催です。詳細は、広報委員会配信の ML にてご確認ください。

■新たな企画として、「トークイベント「子育て中の研究者と考える！研究者のワークライフバランス」」を開催します。詳細は以下の通りです。奮ってご参加ください。

【第 1 回トークイベント「子育て中の研究者と考える！研究者のワークライフバランス」】

日時：2024 年 10 月 17 日（木）12:00～13:30（JST）

前半：各先生のご紹介およびご経験についてのお話

後半：皆さまからいただいたご質問内容に基づく先生方への質問

<ゲストスピーカー>

小原優貴先生（東京大学 グローバル教育センター 准教授）
渡辺雅幸先生（びわこ学院大学 教育福祉学部 子ども学科 准教授）
神内陽子先生（名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 助教）

方法：Zoom によるオンライン開催

言語：日本語

申込方法：下記の Google form から事前登録をお願いいたします

<https://forms.gle/Bu8gWiU5sKEnvU4a9>

申込締切：2024 年 10 月 15 日（火）23:59

※ 参加申込みは前々日まで受け付けておりますが、ご質問のある方は、10 月 7 日（月）までにお送りください。事前登録時にお送りいただいた質問内容に基づき、ゲストスピーカーの方々にお話いただく予定ですので、ぜひご協力のほどよろしくお願いいたします。

■会員の方々からのご意見やアイデアを、委員会専用のメールアドレス jces.ynet@gmail.com までお寄せください。

世界比較教育学会（WCCES）からのお知らせ

担当理事 服部 美奈・山田 肖子

1. WCCES 会長、理事会等の改選結果（2024 年 7 月）

5月から6月にノミネーションが行われ、7月初旬に選挙が実施されました。選挙の結果、前 WCCES 事務局長のカニシカ・ブディ（Kanishka Bedi）氏が新 WCCES 会長に選出され、61st Meeting of the Executive Committee(2024 年 7 月 25 日 am11:00-)で承認されました。また、杉村美紀会員が、WCCES Bureau Member-at-Large に選出されました。

2. 第 18 回 WCCES 世界大会（XVIII World Congress of Comparative Education Societies）

米国コーネル大学で 2024 年 7 月 22 日～26 日に第 18 回 WCCES 世界大会が開催され、日本比較教育学会からも多数の会員の参加がありました。杉村美紀会員が、Day4 Plenary: Thursday, July 25 の Keynote Speech として招待講演を行い、同時に黒田一雄国際交流委員会委員長のイニシアティブのもと日本比較教育学会・WCCES 研究委員会合同パネルセッションが実施されました。

教育関連学会連絡協議会

担当理事 杉村 美紀

教育関連学会連絡協議会では、例年と同様に、来年 2025 年 3 月 8 日にオンラインによるシンポジウムを企画しています。テーマは「日本における教育学研究の国際化の現状と課題——教育関連学会の国際交流・海外発信の動向を踏まえて——」です。詳細はまたきまりましたら、ご連絡申し上げます。なお、日本比較教育学会からは、国際交流委員長の黒田一雄先生が登壇されます。

学会創設 60 周年記念事業

担当理事 森下 稔

学会創設 60 周年記念事業実行委員会が 2024 年度全国理事会および総会での承認を経て発

足しました。委員会の構成は、次の通りです。

【実行委員会名簿】

委員長 森下 稔（常任理事・東京海洋大学）

副委員長 市川 桂（幹事・東京海洋大学）

顧問 西野 節男（名古屋大学名誉教授）

委員（五十音順）

飯田 直弘（幹事・北海道大学）

草薨 佳奈子（常任幹事・名古屋大学）

坂上 勝基（理事・神戸大学）

神内 陽子（常任幹事・若手ネットワーク委員会委員・名古屋大学）

関口 洋平（幹事・国際交流委員会委員・畿央大学）

千田 沙也加（常任幹事・中京大学）

竹熊 尚夫（編集委員会委員・九州大学）

服部 美奈（会長・名古屋大学）

日暮 トモ子（監査・日本大学）

松本 麻人（事務局長・名古屋大学）

また、本事業推進にあたっては、特別運用会計から支出されることになりました。さらに、第 60 回大会では、プレイベントとして特別企画『フィルムカメラの時代の比較教育学』の展示およびトークイベントが顧問をお願いした西野節男さんのご協力で実施され、大会参加会員のみなさんに特別企画についてご案内する機会が得られました。

第 1 回実行委員会（2024 年 7 月 18 日および 7 月 21 日）が顔合わせを兼ねてオンラインで開催されました。続けて、第 2 回実行委員会（2024 年 8 月 11 日）がオンラインで開催され、委員の役割分担など今後の方針が話し合われました。話し合いの結果における重要事項については、9 月開催常任理事会に提案されることになりました。まず、『日本比較教育学会 60 年の歩み』の発刊について、会員限定オンライン公開とする基本方針とし、2025 年 6 月の第 61 回大会の時期に合わせて編集作業を進めることになりました。坂上理事・飯田幹事が中心となって編集が進められます。特別企画については、第 61 回大会での記念イベントを企画していくことになりました。また、フォトスキャナーを活用したフィルムや写真のデジタル化を希望される会員へのサービス提供や、収集した写真データを保存・活用するためのアーカイブス構築について検討していくことになりました。具体的なことが決まりましたら、随時、みなさまにご案内します。

今回、60 周年を記念するロゴが制作されました（左図）。デザイナーの金武智子氏には、服部会長をはじめ事務局から 60 周年記念事業の企画について伝えられました。下記の文章は、金武氏がロゴに込めた思いを述べられたものです。



「ローマ数字の 10「X」と、漢数字の 10「十」を組み合わせることで 60 を表した図案です。時代・文化・地域等さまざまな物事を都度比較研究・分析していくイメージから、違う文化の数字の組み合わせを思いつきました。（他にも数字の種類は多くありますが、わかりやすいものを使い、ローマ数字で 60 は「LX」ですが、積み重ねということで 10 を 6 つとしました） 縦横斜めの線で、派手な素材ではありません

が、キーワードとしてお教えいただいた「記録、保存、アーカイブ、メモリー、写真」も、

大きな塊ではなく、一つ一つの物事が断片となって構成されているものが多いので、今回のデザインにも反映されていると考えました。」

第 60 回大会でお披露目されましたが、60 周年を迎える 2025 年の第 61 回大会にかけて、今後様々な場面でこのロゴが活用されることになります。会員のみなさまに親しんでいただけるよう、本事業を進めていきます。

6. 第 61 回大会について

第 61 回大会実行委員長 山崎 直也

2025 年開催予定の第 61 回大会は、帝京大学が開催校をお引き受けすることになりました。開催日は、2025 年 6 月 27 日（金）～29 日（日）の 3 日間を予定しておりますが、最終的な開催日につきましては、決まり次第、ホームページやメーリングリストでお知らせいたします。緑豊かな多摩丘陵の高台に立つ八王子キャンパスにて、活発な学術的議論が行なわれますよう、大会準備委員会一同、準備に努めて参ります。皆さまのご参加をお待ちしております。

7. お知らせ

●2023 年度会計報告

<WEB 版では非公開>

●2024 年度予算案

<WEB 版では非公開>

●学会への寄贈図書

以下の図書を、著者・出版社より本学会にご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。なお、紀要および研究報告書の寄贈については、数量多数のため、掲載を割愛させていただきます。ご了承ください。

- 市川桂『デンマークの多様性教育』東信堂、2024 年。
(<https://amzn.asia/d/dEKOP0v>)
- 奥本京子、前田美子編著『ファシリテーションが創る大学：教職員と学生の協働による学習コミュニティ』明石書店、2024 年。(<https://amzn.asia/d/iKV8Juo>)
- 開沼太郎『「教育の情報化」政策：ICT 教育の整備・普及・活用』昭和堂、2024 年
(<https://amzn.asia/d/8ZVbtOL>)
- 北山夕華、橋崎頼子編『多文化社会の学校と教師教育：ノルウェーと日本の国際比較研究から』大阪大学出版会、2024 年。(<https://amzn.asia/d/bIwbQpL>)
- 黒田一雄『国際教育協力の系譜：越境する理念・政策・実践』東京大学出版会、2023 年。(<https://amzn.asia/d/9XnmIBH>)
- 経済協力開発機構（OECD）編著、佐藤仁／伊藤亜希子監訳『公正と包摂をめざす教育：OECD「多様性の持つ強み」プロジェクト報告書』明石書店、2024 年。
(<https://amzn.asia/d/bjsDRir>)

- 高山敬太、興津妙子編著『「教育輸出」を問う：日本型教育の海外展開（EDU-Port）の政治と倫理』明石書店、2024 年。（<https://amzn.asia/d/dC5SDC4>）
- 松田弥花『スウェーデンにおける「あたたかい教育」：一ソスペードー教育福祉的専門職の理論と実践』東京大学出版会、2024 年。（<https://amzn.asia/d/aoTnyJL>）
- 吉田敦彦、河野桃子、孫美幸編著『教育とケアへのホリスティック・アプローチ：共生／癒し／全体性』勁草書房、2024 年。（<https://amzn.asia/d/eJgH8JP>）

図書・刊行物の送付、学会運営に関する連絡

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
 日本比較教育学会事務局（松本研究室）
 E-mail: jcesjimu@outlook.jp
 TEL: 052-789-2634
 （不在のことが多いため、できるだけメールでご連絡ください。）

●新入会員

<WEB 版では非公開>

●年会費納入のお願い

年会費納入状況をご確認いただき、未納分がある方は下記の口座へ早めのご納入をお願いいたします。紀要は年 2 回発行ですが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3 年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕00820-6-16161 日本比較教育学会事務局

【注意】

所属機関名にて振込を行われる場合は、該当会員を特定することが難しいため、必ず事務局へご連絡をお願いします。

「学生会員」として登録されている会員で、所属・身分等の変更により「学生」でなくなった方は、会員情報管理システムにて通常会員へ資格変更の上、通常会員としての年会費（10,000 円）をお支払いください。

会員情報、入退会、会費、システム、HP に関する連絡

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-24-1
 第 2 ユニオンビル 4F
 (株)ガリレオ東京オフィス学会業務情報化センター内
 日本比較教育学会事務局
 Tel : 03-5981-9824/ Fax : 03-5981-9852
 E-mail : g020jces-mng@ml.gakkai.ne.jp
 URL : <http://www.gakkai.ne.jp/jces/>

●特別会員制度について

すでにご案内申し上げておりますとおり、2020 年 8 月に開催された総会にて、「特別会員」制度が認められました。この制度は「本会に対して一定の貢献があり、原則として 10 年以上にわたり本会の会員である者。かつ、常勤の定職にはついておらず学生の身分ではない者。」（会則第 4 条関係：細則第 2 条）となっており、会費は年額金 6,000 円です。特別会員になる場合には、学会事務局に申込み、常任理事会での承認を得ることとされています。お申し出は随時、学会事務局（jcesjimu@outlook.jp）で受け付けております。